

10年の歩み

1986

日本私立看護大学協会

目 次

1. 卷 頭 言	1
2. 協 会 案 内	5
3. 10年 の あ ゆ み	6
4. 記 念 式 典	10
ま え が き	11
プ ロ グ ラ ム	11
会 長 挨 拶	11
祝 辞 日 本 看 護 協 会 会 長	12
祝 辞 厚 生 省 看 護 課 課 長	13
5. シ ン ポ ジ ウ ム	15
6. 祝 典	16
7. 会 員 校 名 簿	18
8. 学 校 紹 介	20
9. 会 計 報 告	54
10. 編 集 後 記	55

巻 頭 言

会長 日野原 重 明

日本の私立看護系大学・短期大学が、日本私立看護大学協会を昭和51年8月に発足をさせましてから、10年の年月が経ちました。この協会が設立され、会員校が相互の情報を交換し、私学の特色を生かす創意を語り合い、また卒後の研修会を持回りで担当して過ごした過去10年の歴史は、加盟会員校には有意義なものがあったと信じます。

過去10年の歩みの間に会員校は数も最初の11校から15校に増加しました。私学である会員校のそれぞれの建学の精神の下に、看護教育界に於て果たす各々の役割が更に充実し、発展することを期し、10年の歩みの記録を綴ることの意義を、改めて強く感じます。

本報告集の編纂に御参与いただいた協会の幹事の皆様、ならびに記事を送られた各大学の担当の方々に謝意を捧げます。



協 会 案 内

協会監事 長谷川 浩

日本私立看護大学協会は、わが国の看護教育の向上発展を期し、特に私立看護大学・短大の当面する共通な問題の解決を目指して私学の結束をはかるために、昭和51年8月2日に結成されました。協会発足の当初は11校、そして昭和61年6月現在では17校が加盟しております。

本協会の目的は、「協会は、わが国の看護教育の高等教育機関としての私立大学の責任の重要性にかんがみ、大学相互の提携と協力によって大学の振興をはかり学術と教育の発展に寄与し看護高等教育機関の使命達成を目的とするものである。」（協会規約第4条）と明記されており、加盟校が相互に協力し学びあうことによって、私学のユニークな看護教育を発展させようとするものです。

本協会は、上記の目的を達成するために、次の各項の事業を行なうこととしております（規約第5条）。

1. 看護婦養成課程をおく私立短期大学・大学の財政的振興に関する事項
2. 大学における看護教育の充実と発展に関する事項
3. 看護教育に関する国の行政・制度の調査研究
4. 教育・学術の相互交流
5. 国、地方自治体、地域住民への広報活動に関する事項
6. 私立大学の振興を図ることを目的として設立された機関よりの援助に関する事項

看護教育は、少人数のいわば手づくりの教育に徹して、初めて有為な人材を送り出すことができるわけで、私学の運営は一般大学以上に苦しい課題に直面しております。また、看護を含めた医療の学術的・実践的進歩は、目をみはるものがあります。いまだわが国においては数少ない私学ですが、こうした課題に取り組みつづ、すぐれた看護をつくりだしてまいりたいと念願しております。

なお、本協会の事務所は聖路加看護大学に置かれております。

10 年 の あ ゆ み

1. 結 成

本協会は昭和51年に現会長日野原重明氏の呼びかけによって賛同された私立看護大学・短期大学の学長方によって7月13日に結成準備会が開催されました。続いて8月2日に会議が開催され名称を日本私立看護大学協会と決定し結成されました。当初の会員校は、日本赤十字中央女子短期大学、日本赤十字武蔵野女子短期大学、聖母女子短期大学、天使女子短期大学、東京女子医科大学看護短期大学、聖隷学園浜松衛生短期大学、藤田学園保健衛生大学、東海大学医療技術短期大学、川崎医療短期大学、奈良文化女子短期大学、聖路加看護大学等11校（大学2、短期大学9）でありました。その後、昭和56年（1981）に銀杏学園短期大学ならびに産業医科大学医療技術短期大学が入会され、更に昭和60年（1985）には東邦大学医療短期大学と藍野学園短期大学が参加され、会員校は15校となりました。（会員校の名簿は、このプログラムの9頁にあります）。なお、昭和61年度に北里大学看護学部と聖マリア学院短期大学が新たに参加されました。

2. 事 業

(1) 理事会・総会

本協会の事業として、毎年1回理事会と総会を開催してまいりました。

総会プログラムの中に情報交換という議題を設け、各大学がもっておられる問題を持ちより実情を交換し合う時間といたしております。

その内容の概略は次のようなものであります。

昭和51年のものについて列記いたします。

- 1) 看護教育を担当する教員が不足しているから教員の養成が必要である。
- 2) 臨床実習指導者が得られない。経済的な理由で大学に必要と思われる数の臨床教師を採用することができない。
- 3) 病院の看護婦数が不足しているため学校の教師が補充として使われ、看護教育に専念できない。
- 4) 終戦直後にアメリカに行ったときは、看護学校への志願者が少なくて困っていたが、1975年に行ったときは、志願者が5倍にもなっていた。これは、看護教育が4年制大学になったためである。
- 5) 高校の進学指導教師が看護大学をすすめる場合、頭はよくないが、やさしい気立の人物という条件で指導している。

- 6) 医師の中で看護教育を理解していない人がいる。
- 7) 看護教育は、最近、とくに知識偏重になりモラルに欠けている。日赤では赤十字精神を教育の中で重要視してきたが、戦後はこの精神の実行ができなくなった。

就いては、天使女子短大その他のミッション系の各大学では、宗教を看護教育の中にどのようにとり入れていच्छるかと質問があった。聖隷、聖路加、天使、聖母などから実情について報告があった。

その後の総会において出された情報交換のテーマは、次のようになっています。

- 1) 卒業試験と単位制について
- 2) 大学別にまとめた卒業、入学、行事等の一覧表を参考にして、各大学からの実情報告
- 3) 中途退学の学生についての対策について
- 4) 4年制大学への編入学について
- 5) 推薦入学制度について
- 6) 大学を卒業した新入生の取りあつかいについて
- 7) 高校の進学指導教師に、看護専修学校と短期大学のちがいをどう教えたらよいのだろうかについて
- 8) 現代の学生像について
- 9) 紀要についての規定を知りたい
- 10) 卒業認定に必要な単位数と現状のずれについて
- 11) 各大学の組織と委員会の種類について

以上のほか、まだ細かい事項もございました。

(2) 看護リフレresherコースの実施

会長の発案で実施されることになった卒業後教育の一つであります。看護業務から長くはなれていた卒業生が、進歩した医療界に心やすく復帰できるように気安く勉強する場をつくりたいということから計画実施されるようになりました。このためには会員校が順番に、企画から実施まで引き受けて頂くような仕組みで、昭和55年11月から年2回開催されるようになって現在まで継続されております。看護リフレresherコースの経過は次の表のようになっております。

看護リフレッシュコース実施の経過と予定

回数	日 時	テ ー マ	当 番 校	人数
1	55. 11. 8	新しい看護の役割 外科領域の進歩	日本赤十字中央 女子短期大学	84
2	56. 6. 6	老 人 看 護	聖隷学園 浜松衛生短期大学	81
3	56. 11. 6 7	糖尿病患者の看護	東京女子医科大学 看護短期大学	94
4	57. 6. 4 5	救命救急センター及び総合診 療部の看護	川崎医療短期大学	49
5	57. 11. 5 6	望ましい医療を目ざして	日本赤十字武蔵野 女子短期大学	41
6	58. 6. 3 4	小 児 看 護	東海大学 医療技術短期大学	30
7	58. 11. 4 5	看護とコンピューター	藤田学園 保健衛生大学	43
8	59. 6. 1 2	“いのちの看とり”	天使女子短期大学	83
9	59. 11. 6 7	生命への畏敬と人間の尊重	聖母女子短期大学	130
10	60. 6. 6 7	よりよい看護をめざすための 力をどの様に学生の身につけ させるか	奈良文化女子 短期大学	98
11	60. 11. 15 16	変様する社会に応える看護 －新しい時代の 看護をめざして－	産業医科大学 医療技術短期大学	265
12	61. 6. 13 14	変りゆく看護の動向とその対策	聖路加看護大学	200
13	61. 11. 7 8	腎移植・透析をめぐる諸問題	東京女子医科大学 看護短期大学	
14	62. 6.			
15	62. 11.			
16	63. 6.			
17	63. 11.			

今、この看護リフレッシャーコースのあり方が最初の目的とは大分はなれているのではないかというので見直しが必要ではないかと考えられております。

(3) 調査に関する事項について

- (1) 昭和51年に会員校の財政と問題点についてアンケート調査をし、7頁に及ぶ報告書を製作して会員校ならびに関係機関に配布しました。
- (2) 昭和53年に53年度の入学生の実態調査をいたしました。内容を大まかにわけますと、1.入学試験科目、2.53年度の新入生の納入金、3.入学辞退者の有無などでありました。
- (3) 昭和54年には、会員校同窓生の卒業後の動向についてアンケート調査をいたしました。これは、看護リフレッシャーコースを始める貴重な資料でありました。
- (4) 専攻科のための助成についての調査は今後の研究事項として残されていません。

(4) 広報活動について

- (1) 昭和56年に、医学書院のご好意で、会員校の同窓生の卒業後の動向調査のまとめをもとに座談会が開催され、雑誌『看護教育』の昭和56年6月号に掲載されました。
- (2) 昭和60年に「看護リフレッシャーコースのこれから」というテーマのもとに再度医学書院で座談会が開催されて、『看護教育』昭和60年11月号に掲載されました。

(5) 企画委員会の活動

昭和54年度の総会において、調査研究に関するアンケートの作製とまとめをしていただくために企画委員会が設置されました。

以来企画委員は本協会事業の推進力となっています。

委員は、長谷川 浩先生 東京女子医科大学看護短期大学主事
森 まさ子先生 日本赤十字中央女子短期大学教務部長
内田 靖子先生 東海大学医療技術短期大学学部長
和田サヨ子先生 聖母女子短期大学教授

(6) 日本私立看護大学協会結成10周年記念行事

昭和60年7月5日の定例総会に於て、行事实施について決定されました。

その後企画委員会によって、行事の企画、プログラムの作製、運営の手順等が検討され、当日を迎えることができました。

記念式典

日本私立看護大学協会結成 10 周年記念祝典

日 時 昭和 60 年 11 月 22 日 (金) 午後 3 時
場 所 日本赤十字中央女子短期大学

プログラム

(1) 式 典 午後 3 時～3 時 30 分

開会の辞 長谷川 監事
会長挨拶 日野原 会長
会務報告 前田 書記
祝 辞 日本看護協会会長 殿
厚生省看護課課長 殿
閉式の辞 長谷川 監事

(2) 記念シンポジウム 午後 3 時 45 分～5 時 45 分

テーマ 私学における看護教育の課題と展望
◎大学・短大による看護教育の意義
◎私学の目ざすもの
◎解決すべき問題点
◎将来への展望 など

司会者 日野原 会長

シンポジスト

天使女子短期大学学長	外崎 陽子 先生
日本赤十字中央女子短期大学教務部長	森 まさ子 先生
東海大学医療技術短期大学学部長	内田 靖子 先生
聖路加看護大学学部長	檜垣 マサ 先生
産業医科大学医療技術短期大学学長	土屋健三郎 先生

(3) 記念パーティ 午後 6 時～8 時

会 長 挨拶
副会長乾杯
祝 辞 列席の各学長

記念式典における会長挨拶



今日日本私立看護大学協会創立10周年を迎えての式典をもつことは非常な感謝です。日本の看護教育が始まってから100年が経過し、日本看護協会はこれを記念して祝典を昨年催しました。

日本の看護界は今日まで苦難の道をたどってきました。

戦後に日本の学校教育法が改正され、看護にも大学・短大の道が開かれるようになりました。そして、私学のよき高等教育の効果が発揮されるようになってやっと10年前に私学系の看護学校が集まり、看護教育の向上のため、また、看護の研究に協力しようという申し合わせをした協会を発足させました。それは、暑い夏の日でありました。

10年はまたたく間に過ぎ、協会発足時の11校が15校になり、協会の働きは充実して参り私たちのこの協会の育成と発展は事務局の労苦を負われた東京女子医科大学看護短期大学主事の長谷川浩先生その他の理事の方々に負うところが多大であります。この協会は毎年7月に集まって総会を開いております。

5年前からは看護リフレッシャーコースと銘うって各会員校が交代に当番になってこのコースの企画と実施をひきうけることに合意いたし、これが実行されてきました。

前回の看護リフレッシャーコースは産業医科大学医療技術短期大学において開催され、260人以上の出席がありました。

この看護リフレッシャーコースは、まことにユニークなプログラムでありました。私共はお互いの学校同志の交わりを密にし、さらに有意義な企画を行うという気持ちをもっている次第です。

今後看護婦の教育を私立の立場から考え、その発展につとめたいと存じます。今日はお立派な会場を日本赤十字中央女子短期大学からご提供いただき、これからシンポジウムがもたれることになりましたことは、まことに意義深いものと思います。協会設立10周年記念のこの企画をお世話下さいました方々に厚く御礼申し上げます。

祝 辞

日本看護協会会長 大 森 文 子



日本私立看護大学協会結成10周年記念祝賀式にお招きをうけましてご挨拶をさせていただきますことを大変光栄に存じます。

私共の日本看護協会が制度のことでいろいろな意見を申し上げておりました、そして先生方にご苦勞をおかけしたのではないかとと思いますが、本当にご理解を頂き、学校教育法によります4年制大学、あるいは3年の短大、2年の短大を設置、運営しておられるここにお集まりの先生方がどんなにかご苦勞をしていらっしゃるかがよくわかります。

資料も頂きまして財政的に私立でやっていかれますには本当に大変なことがたくさんあるのだろうと存じます。

私共は、力が足りませんのでそれをお助けすることもできないでおります。

考えてみますと、私学助成金をもっと看護大学にたくさん頂けるような運動が必要だと存じます。今年の年末にはこの運動をしなければならないとしみじみ感じておりますのでこれから一層私共は努力をさせていただきます。

本当にご協力をいただいてそして看護教育の質をあげるために第一線に立っていただいておりますことを御礼申し上げたいと存じます。

ありがとうございます。

祝 辞

厚生省看護課 課長 矢野正子



厚生省は約20年にわたって看護婦確保対策をおし進めてきておりますが、現在は
その施策の見直しを要する時期になってきております。

看護婦確保対策は、主として看護婦の量的充足が重点目的であります。予算の面
では、修学資金貸与、看護婦等養成所運営費補助、看護婦等養成所施設整備費補助、
院内保育所補助、ナースバンク等の項目別に予算化し、看護婦の確保をはかってま
いりました。昭和60年度の看護婦必要数は、第二次需給計画では66万人となってお
り、これを59年の就業者数でみると、保健婦・助産婦・看護婦を合わせて67万人と
みております。

また、本年3月、厚生省に看護制度検討会が設置され、看護制度の基本的方向に
ついて検討をはじめました。准看教育のあり方、看護教育のあり方、これからの看
護婦に期待されるもの等々、高齢化等の社会の変化に対応した看護の機能を果たす
ためにこれらの検討課題があげられております。

看護界には旧くて新しい問題がたくさん残されております。看護制度検討会が進
むにつれて、今年から来年にかけ話題が多くなることとしますので、各方面から
巾広いご意見をお願いしたいと思っております。

日本私立看護大学協会設立10周年、おめでとうございます。貴会の今後の益々の
発展をお祈りいたします。

協会設立 10 周年記念シンポジウム

私学における看護教育の課題と展望

昭和60年11月22日、協会設立10周年記念行事として「私学における看護教育の課題と展望」と題したシンポジウムが行われた。このシンポジウムは記念式典に引き続き行われたが、会場（日本赤十字中央女子短期大学講堂）には来賓および協会加盟校の関係者多数が参加し、活発な討議が展開されて盛況であった。

その詳しい内容は、『看護教育』VOL.27、No.6、1986 343 - 361（医学書院）に掲載されているので、ここではその要点を述べる。

司会者およびシンポジストは、次の通りであった。

司会者：日野原重明（協会長・聖路加看護大学学長）

シンポジストとテーマ

「私立看護大学の課題と展望」 外崎 陽子（天使女子短期大学学長）

「私学における看護教育の課題と展望」

森 まさ子（日本赤十字女子短期大学教務部長）

「看護短期大学における学生指導上の課題」

内田 靖子（東海大学医療技術短期大学学部長）

「建学の精神の具現化からみた聖路加看護大学の現状と問題点」

檜垣 マサ（聖路加看護大学学部長）

「産業医科大学の歴史と大学運営の問題点」

土屋健三郎（産業医科大学医療技術短期大学学長）

私学教育は、それぞれの建学の精神を基本的な理念として展開される。各シンポジストの論述も、独自の建学の精神が看護教育の基盤になっていることを明らかにし、国公立の看護教育との違いを強調した。

そして、これらの理念を教育の現状にいかにか反映させるかという点について、大学設置基準や指定規則などの公的な規制とか移りゆく学生気質への対応にいろいろな問題のあることが報告された。現在の規制のもとでは、教科の種類や数があまりにも多く、とかく詰め込み主義になりがちで、学生の主体的な学習とか創造力の養成に向けて特段の工夫が必要である。医学の専門教育の問題点が看護教育にも波及している。産業看護の独自のコースをめざしたが、公的な認可が困難であったなどの問題点の指摘があった。「学生が自ら考え自ら行動を起す教育」、これは各大学

の共通な課題のようであった。

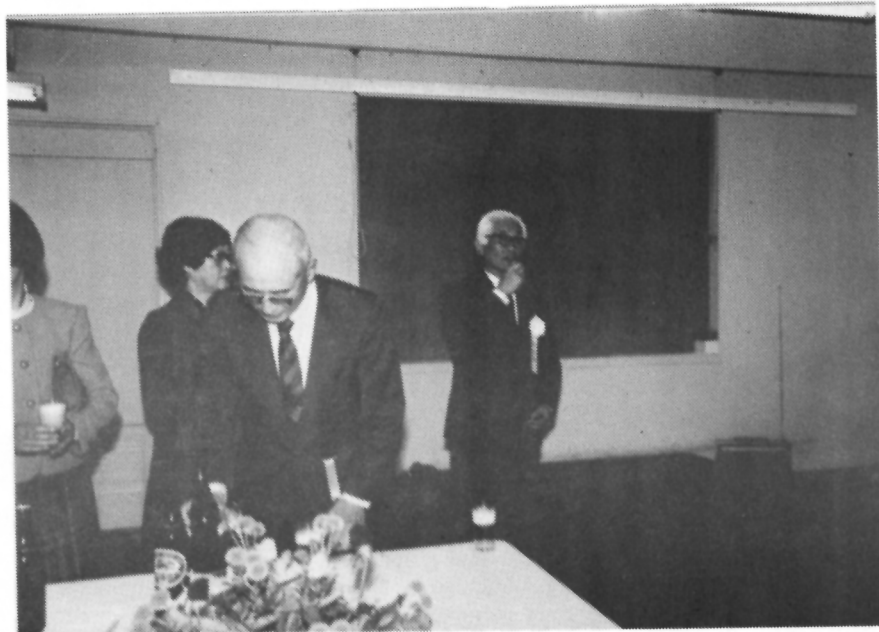
看護学生のパーソナルな特性について、「自己認識の関心が強い」、「養護・内罰の特徴が強い」などの報告があった。享乐的傾向の強い一般の学生気質からみれば、看護学生は人間に真剣に取り組もうとしていることがわかる。しかしそれだけに、否定的自己認識に落ち込んでしまわないように教育者の責任が痛感された。「教師は学生ひとりひとりの特性をつかみ、また教師自身人間として看護婦として自らを知り、学生とかかわることが大切である」という主張は、多くの共感を得るものであった。

「私学は勇敢にいろいろな制約を打ち破って看護教育を発展させよう」という日野原会長の言葉で、このシンポジウムの幕がおりた。



パーティー風景

乾杯 小林 隆副会長



聖隷学園の長谷川学長

記念パーティーは、会場を提供して下さいました日本赤十字中央女子短期大学のご配慮によりまして盛大に行なわれました。小林副会長の乾杯で始まり、会員校の学長のみなさまからおことばをいただきました。6時に始まったパーティーは、8時まででなごやかな雰囲気楽しく続けました。出席者は100人余で賑やかでありました。





パーティの始まり



学長のあいさつを代読される



学長のおことは次々に引きつがれ
 終りまで続く
 (天使短大の外崎学長)

会員校の紹介

日本私立看護大学協会会員並びに役員名簿

(五十音順) 昭和61年5月11日現在

大学名・所在地	電話	設立年月日	代表者		協会役職名
			氏名	職名	
藍野学院短期大学 〒567 大阪府茨木市東太田4-5-4	(0726)27-1711	60. 4. 1	細川 修治	学長	理事
川崎医療短期大学 〒701-01 倉敷市松島316	(0864)62-1111	48. 2. 14	望月 義夫	学長	理事
北里大学 〒108 東京都港区白金5-9-1	(03) 444-6161	60. 12. 25	伊藤 宏	学長	理事
銀杏学園短期大学 〒860 熊本市清水町大窪819	(0963)44-7611	43. 2. 3	上野 直彦	学長	理事
産業医科大学医療技術短期大学 〒807 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1	(093)603-1611	54. 4. 1	土屋健三郎	学長	理事
聖母女子短期大学 〒161 東京都新宿区下落合4-16-11	(03) 950-0171	25. 3. 14	沢 礼子	学長	理事
聖マリア学院短期大学 〒830 久留米市津福本町422	(0942)35-7271	60. 12. 25	中川 洋	学長	理事
聖隷学園浜松衛生短期大学 〒433 浜松市三方原町3453	(0534)36-5311	44. 3. 27	長谷川 保	学長	理事
聖路加看護大学 〒104 東京都中央区明石町10-1	(03) 543-6391	39. 1. 25	日野原重明	学長	会長
天使女子短期大学 〒065 札幌市東区北13条東3丁目	(011)741-1051	25. 3. 14	外崎 陽子	学長	理事
東海大学医療技術短期大学 〒259-12 平塚市南金目143	(0463)58-1211	49. 1. 10	佐々木正五	学長	理事
東京女子医科大学看護短期大学 〒162 東京都新宿区河田町8-1	(03) 357-4801	44. 22. 8	吉岡 守正	学長	理事
			長谷川 浩	主事	監事
東邦大学医療短期大学 〒143 東京都大田区大森西6-9-20	(03) 762-4151	60. 4. 1	五島瑳智子	学長	理事
奈良文化女子短期大学 〒635 大和高田市東中127	(0745)52-0451	40. 1. 25	中村章太郎	学長	理事

大学名・所在地	電話	設立年月日	代表者		協会役職名
			氏名	職名	
日本赤十字看護大学 〒150 東京都渋谷区広尾4-1-3	(03) 409・0875	61. 2. 3	小林 隆	学長	副会長
日本赤十字武蔵野女子短期大学 〒180 武蔵野市界南町1-26-33	(0422)31・0116	41. 1. 25	丹羽 直久	学長	理事
藤田学園保健衛生大学 〒470-11 豊明市沓掛町楽ヶ窪1-98	(0562)93・2000	41. 1. 25	藤田 啓介	学長	理事

私立看護大学・短大は、それぞれの建学の精神に基づき、独自の看護教育を行っている。

そこで、加盟校の学園案内を掲載する。

なお、10周年記念祝典の時点での「日本赤十字女子短期大学」は「日本赤十字看護大学」に昇格しており、さらに「北里大学看護学部」と「聖マリア学院短期大学」の2校が新たに協会に加盟したので、この2校も収録する。



藍野学院短期大学



校章の説明

藍野病院のなかに学術財団が設置され、第1回の国際学術集会在開催されたのは昭和59年9月である。その時に考案されたシンボルマークが、医療法人と学校法人に共に引き継がれて現在に至っている。

そのデザインは、Aino Hospitalの頭文字であるAとHとを組合せ、そこへ赤十字を配したものである。また、この意匠は、小山理事長が専門家の助言を得た上で、自ら考案したものである。

なお、周囲にラテン語で刻まれている、SALUTI ET SOLATIO AEGRORUM という標語は、「病める人を医やすばかりでなく慰める為に」という意味で、オーストリア皇帝ヨゼフ2世が、現在のウィーン大学附属病院をウィーン市に寄贈した時の碑銘である。

本短期大学は大阪と京都の中間、北摂山脈のふところに抱かれた緑豊かな高台にあります。継体天皇御陵などの古墳群に囲まれた広大な藍野キャンパス内には、本学学舎とともに、藍野病院、藍陵園病院、藍野医療技術専門学校などが点在し、アカデミックな雰囲気は、看護新時代に求められる若い看護婦(士)を養成するにふさわしいヒューマンな空間を形成しています。本学は昨60年4月開学した、学生数173名の大学であるが、アカデミックな雰囲気の斬新な現代感覚が息づいています。学舎には、大講義室、視聴覚教室、小講義室を備えています。看護実習室1、2があり、看護実習のすべてが病室となっており、ここで看護実習のすべてが、隣接するモニタールームで録画撮りできるようになっています。VTRに録画された場面を見ながら、先生や学生がディスカッションし、看護の基礎を学んでいます。基礎医学実習室は生化学、薬理学、微生物学、病理学などの実習を通して基礎的専門知識を身につけられます。特に病理学は剖検症例で肉眼像と組織像を通じて疾病理解が出来るようにしています。本学は藍野ホールをそなえ、学園行事や学生のクラブ活動に使われるほか、学会、講演会、シンポジウムなどの学術行事につかわれています。

オーディトリウムとしての音響・照明、映写などの設備をすべてそなえており、各シートには同時通訳設備も設置されております。ホール一階は図書館で、地下は学生食堂であります。

本学は「病める人をいやすばかりでなく慰めるために」を医の理念とし、教育もこれに基づいて行っております。医学教育、看護教育は、最も重要なことは人間性豊かで、慈愛に満ちた人づくりであります。病める人々に愛の手が自然に出るには、看護婦(士)が心身共に健康で強靱な精神力と肉体をかね備えたものでなければなりません。そのため、広範な教養と豊かな人間性にあふれた人材養成を第一の教育方針としています。

現代医学は周辺科学を導入して新らしい総合的研究がなされています。このような情勢をふまえて、基礎・専門の両分野を十分マスターした看護婦（士）を育てるよう、実習に重点をおいた教育を進めています。

新時代の保健医療のパイオニアになるように、研究心に富み、創造性と実行力のある看護婦（士）教育を行っております。

教育職員並びに学校法人理事が一丸となって新時代がもとめている若い看護婦（士）の教育に尽瘁している現況であります。



ホール前のナイチンゲール像

川崎医療短期大学



校章の説明

〔医短大〕は、医療短期大学を縮めたもの。これを取り囲む3本の線は、川崎学園の川の字の図形化であると同時に、建学の理念 1. 人をつくる。 2. 体をつくる。 3. 深い専門的知識技能を身につける。のそれぞれを表示している。学生はこのマークに限りない信頼と愛着を寄せている。

学校法人川崎学園は、現代のチーム医療に不可欠なあらゆる専門技術者を同一理念のもとに養成するために、昭和45年医科大学を中心とした一大医療総合学園をめざして設立された。その一環として昭和48年4月、川崎医療短期大学が創設された。開学当初は第一看護科（3年定員50人）、第二看護科（2年定員50人）、臨床検査科（3年定員50人）の3学科で発足、昭和52年放射技術科（3年定員50人）、医療秘書科（2年定員100人）、更に昭和58年栄養科（3年定員50人）、通信教育部（医療秘書科3年定員150人）を増設、6学科（総定員900人）と1通信教育部（定員450人）を擁する名実共に総合医療技術短期大学に発展した。しかし、創設から現在まで決して容易な道ばかりでなく、当時の回想録には、その苦難の跡が窺われる。この度日本私立看護大学協会設立10周年に当り、その記念誌に当短大の発展の様子を報告できることは、まことに感慨無量である。

川崎学園の建学の理念に、1.人をつくる、2.体をつくる、3.深い専門的知識技能を身につけるという3本の柱がある。看護科の教育も創学当初から、この方針を貫いてきた。少くとも将来人間を相手に、しかも命にかかわる道を歩む者として、人間の尊厳を尊び、人間の心と心の触れ合いを大切にする看護婦を育成するためには、豊かな人間形成即ち人をつくることが第一に要求される。また看護に携る者は、自らの健康を保ち、身心共に最良の状態で見守る看護に当らなければならない。

幸い当短大は、立地条件にも恵まれ岡山市と倉敷市の中間に位置する文教地区、豊かな吉備の広野を見はるかす松島の丘にある。緑に囲まれてスポーツに文化活動に、心身の鍛錬には絶好の環境にある。さらに専門的知識技術を修得することはいりまでもないが、進んで自ら学び将来大きく成長する看護婦の育成を願って教育に専念している。現代医学の進歩発展に即応した実践ができる医療技術者を養成することは、川崎学園共通の理解であり医科大学附属病院（1,154床）を短大の附属病

院として充実した実習に努めている。第1回卒業生（昭和50年第二看護科）以来
国家試験合格率は絶えず100%を維持している。



北里大学



校章の説明

北里大学の校章の特徴は「學」の字にある。中央部のXの部分が撥(ばち)状になっている。これは破傷風菌を圖案化したもので、学祖北里柴三郎先生が破傷風菌の純培養に成功し血清療法を確立されたことを記念するものである。

なお、右図は看護学部の校章である。



本学園は昭和37年に北里柴三郎先生の学統を嗣ぎ、先生が具現された開拓・報恩・叡知と実践・不撓不屈の精神を建学の理念として設立されたものです。

現在、当大学は衛生学部・薬学部・獣医畜産学部・医学部・水産学部および昭和61年開設の看護学部の6学部12学科で構成されております。

看護学部に関しては、昭和45年医学部の設置を契機として、総合的な医療体系確立の理念のため4年制大学レベルでの学部設立が企画されてきました。

この理念にそって昭和47年より53年にかけては2年進学課程の看護学院、昭和54年より3年課程の看護専門学校を設置して着実に成果をおさめてきました。

最近の科学技術の発達は各分野に顕著であります、とりわけ医療・保健・衛生等の分野での進歩は目覚ましいものがあります。

看護も病める人を看とることから人の健康を守り育てる看護へと広がってきました。人間が痛み、或いは病んだ時には、“人を治療する技術”と“人を看とる技術”とが、人間性をみつめながら協調して活動しなければなりません。従ってここにおいて、より高度化、複雑化した医療に対応し得る看護専門技術者の養成と、医療人としての人格形成教育が是非とも必要とされるようになりました。この“人を看とる”ことのできる人材を、高等教育として育てるところが看護学部です。

看護学部は、建学の理念たる北里精神を基盤として、

1. 看護教育の刷新
2. 看護学の体系化
3. 医療、保健衛生への貢献
4. 生涯教育のモデル化

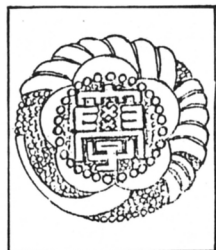
を教育の目標とし、既設他学部との緊密な連携のもとに、高度な看護に関する科学技術を修得させるとともに、倫理・哲学をはじめ、人文・社会等にわたる視野の広

い知識をもった新しい看護師を育成します。

これにより、本学部は生命科学を追求し、人類の健康、福祉に関する教育、実践、研究が全うできるものと信じています。



銀杏学園短期大学



校章の説明

熊本城は、ぎんなん或は、いちよう城とも呼ばれる。校章は、銀杏の葉に、葉ともなるあんずの花を配らったものである。

名 称 銀杏学園短期大学
位 置 熊本市清水町大窪 819 番地
郵便番号 860
電 話 熊本(096) 代表344-7611
学 長 上野直彦
学 科

1. 看護学科(学科長 松原高賢)
修業年限2年。入学定員40名(総定員80名)
2. 衛生技術科(学科長 有松徳樹)
修業年限3年。入学定員100名(総定員300名)

沿革

昭和34年財団法人化学及血清療法研究所の公益事業の一環として創立された臨床検査技師養成学校熊本医学技術専門学校を母体として、昭和43年臨床検査技師法の規程による2年学制の学校法人銀杏学園、銀杏学園短期大学が設立された。その後、昭和48年、3年学制となった。更に、昭和58年2年学制の看護科が設置され、本学は2学科制となった。

看護科設立の精神と現況

本学は、全国に15校(昭和61年4月1日現在)のうち九州では唯一の進学課程の短期大学であって、地域における看護の質の向上を目標として設立されたものである。高齢化社会が急速に進み、地域住民の看護への期待が多様化している今日、これに応えるため臨床実習のうちの2単位を保健所実習に当て、地域の人々の生活

の場における看護を学習させているのは本学看護科設立の精神に基づくものである。

卒業生は、1期生34名、2期生44名、計78名であるが、全員看護職に就いており、うち64名(82%)は熊本県下の主に中小病院にあり、地域の人々と密に触れ合い、きめ細かな看護を実践している。



産業医科大学医療技術短期大学



校章の説明

建学の使命である「人間愛に徹し生涯にわたって哲学する医療・保健従事者を養成」を表現するにあたり人間の「人」を医学の「M」がおろらかに囲み、更に大地を踏みしめた人文字は哲学する医師を志す力強さであり、天を仰ぎ真直に伸びる上半身は、Mの飛躍を示す両翼の心臓部となり大学の大を表わす。

産業医科大学医療技術短期大学は昭和54年に看護学科及び衛生技術学科の二科によって発足した。その後、昭和57年には地域看護学専攻科を加えたが、専攻科では地域看護はもちろん、我が大学の建学の主旨に沿って産業看護を十分に取り入れたカリキュラムを基本として授業を行っている。

現在、看護学科の定員は60名、衛生技術学科は40名、地域看護学専攻科は15名となっているが、当大学では修学資金の貸与制度があり、いわゆる産業保健関連職場に就職し、3年間勤務した場合は修学資金の貸与を免除することになっている。現在、看護学科についてはこの修学資金返還免除職場に大部分が就職しているが、衛生技術学科にあつては福岡県内で自宅通勤ができるという条件を望むものが多く、約半数は修学資金を返済している。現在、学内で問題になっていることは3年間の短期大学教育では中途半端であり、その上カリキュラムが過密になるということから、現在のままの短期大学教育でよいのかどうか議論されている。

看護学科だけについて言うならば、毎年約30ないし40人程度が産業医科大学病院に勤務し、その他は他の大病院等に就職している。

もともと我が短期大学看護学科の目的の1つは産業医科大学病院の看護婦を自ら充足するために設置された訳であるが、産業保健は産業医のみで展開することは不可能であり、他の職種、特に産業保健婦は産業保健の中にあつて必要欠くべからざる一員となっている。

このような意味から、先述の専攻科卒業生の企業からの求人は多く、また、企業内での活躍も好評を受けているようである。

我が国の将来の看護を考える時、病院だけでなく地域、学校、職場等において看護婦や保健婦のより一層の活躍が望まれるし、また、何といたっても看護教育のための人材を育成することは急務であると考えられる。その意味からも、4年制の大学がもっと増加することを切に希望したい。



聖母女子短期大学



校章の説明

ラテン語は、「愛によって真理へ」の大学の校訓が書かれている。十は看護の象徴とキリストの十字架をかねて表現している。まわりのくさりの結びは、世界の人類が、一つの輪に結ばれていること、そして世界中の人に愛の看護の手をさしのべるという意味である。SCNは、Seibo College of Nursingである。

8時20分、今朝も学生は聖堂に集り、静かな祈りの時をもちます。聖書の言葉を聞き、黙想し、讃美歌を歌い、神の愛、両親、家族や友人の愛の中に生きる喜びを知り、感謝と希望のうちに新しい一日が始まります。

聖母女子短期大学は教育の根底に神を中心とする世界観をおき、先端技術時代に生きる専門職業人として、医療に関する優れた知識と技術をもって、広く人々の福祉に奉獻できる成熟した人間を目指し、個人の陶冶に努め、特に気品と暖みをそなえ、洗練された感受性を身につけた女性の育成に力を注いでいます。

看護は統合された全体としての人間を対象とし、看護婦自らも統合された人間として、両者の相互作用によって生まれ、双方が愛の帯によって結ばれ一致する時に、その目的が達成されると考えています。「愛によって真理へ」をモットーにする大学の3年間の教育課程は、全寮制による生活体験の中で、理論と実践の統合を学習させ、医療施設（病床）や地域の人々の看護に適用できるよう全人教育に力を注いでいます。初めて親元を離れ、学内及び学寮生活の新しい環境で、「人間」「健康」「社会」についての学習がはじまります。入学時の合宿オリエンテーションで、聖書に触れ祈りのうちに、看護の道に選ばれた者として、喜びと誇りを味わい、人生の価値を見出し、人間尊重を認識し、更に生を得た感謝の気持ちは、看護を通して世界の果てまで、平和づくりに貢献する使命を自覚します。WHOの提唱する、「HFA（全人類に健康を）」に向って協力できる人達を送り出す事を念願しています。看護教育に折り込んだ養護教諭の育成によって、中学生及びその家庭の健康教育に関与します。

開発途上国や難民救済のためには既に活躍していますが、インドの救済に生涯を捧げるため間もなく出発する一卒業生がいることも、日頃、本学のため御指導御鞭撻下さる多くの方々のお蔭様と感謝し、看護教育への新たな意欲を燃やしています。



聖マリア学院短期大学



校章の説明

キリシタン時代の古い聖体布が東京の国立博物館にあります。その古びた麻の布の四つのすみに色あせた朱色の十字架が縫いとりしてあります。これをマリアの花と云われる白百合が囲んで在りました。

バッジの下の文字は St. Mary's Junior College の略字です。

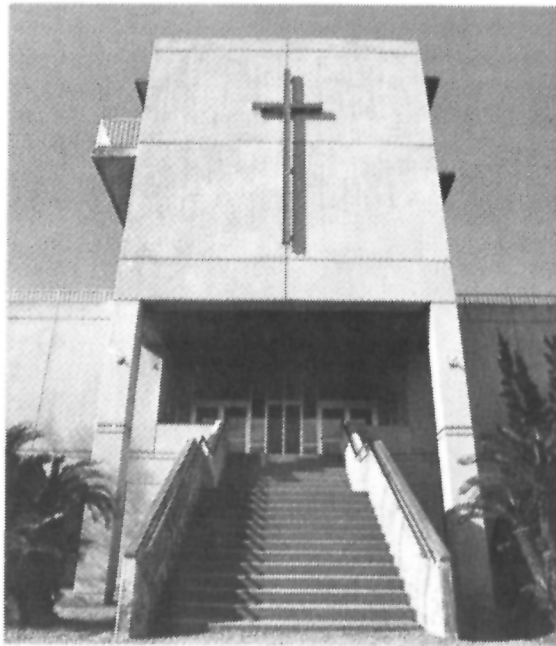
カトリックの愛の精神に基づく研究教育をめざす本学は、看護学科（1科3年コース、2科2年コース、定員各40名）、保健学科（1年コース、定員40名）、助産学科（1年コース、定員20名）よりなる聖マリア看護専門学校を母胎として、本年4月に看護学科（定員100名）としてスタートしたばかりである。開学当初として、御他聞にもれず、体育館、学生食堂が無いなど、施設・設備の面では不自由をしているが、クラブ活動等の課外活動は学生からの要請もしくは学校側の働きかけにより、すでにいくつか動き始めている。

また、私学にとって最大の特徴である建学の理念を実現するためには、「看護教育の中の宗教教育の意義」という題の下に週に一回特別講義を組んで、本学の教育に理解を示して下さっている方々に講演をお願いしている。すでに済んだところでは、奄美の園理事長、川原ゆきえ先生の「看護のこころ」、九州大学文学部教授、稲垣良典先生「愛とおきて」。先週は聖マリア病院で研修中のパキスタン国イスラマバード病院副院長、Dr. Ahbas「母乳栄養について」、および同病院総婦長 Mrs. G.P. Khakwani「パキスタンの看護について」を特別組みこんだ。次回は、上智大学名誉教授、高橋憲一先生に「愛を考えねばならない理由」という題でお願いしている。

なお、看護教育研究の会として、隔週に研究発表会を開催して、「人間を対象とする看護とはいかなるものでなければならぬか」や「宗教的なものに根ざした看護には何ができるか」といった問題について踏み込んだ議論が交わされている。こちらはすでに4回目を数えている。

医療の世界では何やら政治的思惑に左右されすぎているような気がする。看護の在り方が、看護料の額によって決められてはならないように、医師の働きも医療費抑制策によって動かされてはならないであろう。私どもの実習病院である聖マリア病

院は「救急病院」の立場にとどまらずよき医療をめざして前進して、常にわれわれの「看護教育」を刺戟してやまない。私共もこの刺戟を内部だけにとどめず、外に向かって働きかけたいと思っているものである。



■祝帽式

聖隷学園浜松衛生短期大学



校章の説明

最後の晩餐のとき、主イエスは「上着を脱ぎ、手ぬぐいをとって腰にまき、それから水をたらいに入れて弟子たちの足を洗い…」とあるように、自ら進んで奴隷の業を行った。外側の二重円はこのたらいを表わす。内側の三重円は、赤色が医療を、緑色が福祉を、青色が教育を表わす。中心の十字架は「キリスト教の精神にたって事業を行う」という基本姿勢を示す。

この図案は1981年3月まで本学園に在職していたアメリカ人のアルバート・アットウェル博士によって考案された。

静岡県西部地域の中心都市浜松市の北端、三方原の地に「福祉・医療・教育」の集合体である聖隷福祉事業集団のコミュニティゾーンがあります。その一角に本学は位置し、この事業体の母体として昭和44年に開学し、第一衛生看護学科・第二衛生看護学科と専攻科助産特別専攻を併設し、学生総定員は515名の看護短大としては大規模校です。卒業生は2千数百人をこえ、本事業集団の医療・福祉施設や全国各地で、なかには海外で働いて活躍しています。

本学はキリスト教精神に根ざして人格をみがき、聖書の示す隣人愛を看護の心とする看護者の育成を目指し、専任教員50名と非常勤講師、ほぼ同数の教員が教えるものも学ぶものも日々の学びをともにしています。本学のカリキュラムの特徴としてキリスト教が必須科目となっており、また毎木曜日に全学一斉に礼拝の時間をもっています。開学当初から学長の方針で大勢の学生に対して教育効果をあげるため視聴覚教育を導入し、その機器の整備をしオリジナル教材を作成して講義に演習に活用し、また学生も自由に利用しています。理論と実践を統合する学外実習においては、聖隷福祉事業集団の医療・福祉の諸施設をはじめ、地域の各機関の協力を得て、医療と福祉と地域の場で看護を学ぶことができるのは大変幸いなことです。毎年有志の教員によって開れる自主講座「人間研究」には学年をこえて学生が参加し、教員と学生の学びを深める場となっています。その他学校行事としてナイチンゲール祭・球技大会・学内学会等があり、これらの行事からも学びを期待しています。学生指導においては、担任教師、学生委員会、学生相談室において学生の身上や勉学等の諸問題について相談助言していますが、毎年数人の学生が学舎を去っていくことは残念なことです。

学生の自主的活動として各種クラブ・同好会があり「聖書研究」クラブや一昨年マザー・テレサが来園したのをきっかけに「東南アジアの医療を考える」クラブが

発足し、夏休みに JOCS の研修に参加し、ネパール、タイ等の現地に出かけています。またスポーツクラブのなかでバレー部は最近、東海地区大学リーグ1部で強豪チームとして活躍しています。昨年度から地域婦人を対象にした公開講座を開講し、今後発展させたいと願っています。



聖路加看護大学



校章の説明

外廓の楕円形は種の形を表しています。これは“種は神のことばである”と聖書のルカによる福音書8：11に書かれています。また“一粒の麦”ということも意味しています。一粒の麦が地におちて死ぬことにより豊かに実を結ぶようになるとヨハネによる福音書12：24に書かれています。中央は十字架を表しています。ともし火は“世の光”とし、灯台の上においてすべてのものを照らすと、マタイによる福音書5：14～15に示されています。また、クリミヤにおいて、ナイチンゲールが夜も傷病者をひとりひとり見舞った時の灯台としてもかたどっています。花はなでしこで清く美しい日本女性を象徴しています。

(沿革)

聖路加看護大学は、明治33年に来日して聖路加病院の基礎を作ったキリスト教宣教師ルドルフ・B・トイスラーが、大正9年に欧米の高い水準の看護教育法を日本で最初に導入して始められた、聖路加高等看護婦学校が母体である。

昭和2年には専門学校(旧制)の認可を受け、日本唯一の看護の高等教育機関として存在してきた。

戦後学校教育法の改正に伴い、昭和29年に短期大学、そして昭和39年には大学に発展し、今日に至っている。

また、大学の基礎教育を土台に、教育者、研究者の育成を目指して、昭和55年に大学院(修士課程)を開設した。

(目的と特色)

本学は、キリスト教精神に基づき、看護を志す人々に、その人格の形成を計り、看護の学と術を修得させて、看護職に従事できる人を育成することを目的としている。

本学の特色は、この目的をめざして、教職員との密な人間関係を通して相助け合い、生涯にわたる継続的自己開発学習の態度を習得させることにある。

また、学生の自発的参加によるチャペルアワーが毎日もたれている。

(大学院)

本学は看護の高等教育機関として数多くの指導者を世に送り続けてきたが、昨今の看護学の進歩にあわせてこの伝統を維持し、さらに飛躍をはかるため、昭和55年大学院を開設した。

(編入学)

看護学を短期大学のコースで修得した者の中には、卒後ひきつづき、或は一定の臨床経験後、さらに看護学の基本をより確実に身につけ、将来の看護教育指導者、研究者、臨床看護各領域の専門家になりたいと希望する者があるので、昭和51年から三年次へ編入する「編入学制度」を開設した。



天使女子短期大学



校章の説明

船が目的地に向かって航海するように、荒波にもめげず、愛と真理という目標をめざして学生々活を歩んでゆくことを象徴している。

星は明けの星なる聖母マリアの輝き、十字架はキリストの愛、まわりのつなは、しっかりと結びついた平和の輪を意味する。

天使女子短期大学は、キリスト教の精神に基づく教育を行うカトリック系女子短大である。昭和22年にその前身である札幌天使女子厚生専門学校が創立され、昭和25年学制の改革により短期大学を設置した。

学科及び一学年定員は、衛生看護学科（3年課程）40名、食物栄養学科（2年課程）100名、及び専攻科衛生看護学専攻（1年課程・保助合同コース）20名である。

教育理念は、「愛と真理に生きる」という建学の精神が源泉になっており、必修である哲学・宗教・倫理等を通して、神は愛であることを知り、その神からつくられた人間の尊厳を知ると共に、他の関連科目や学生生活全般を通して、開かれた心をもって隣人のために奉仕する自由と責任ある人格を形成することをめざしている。

以上の全般的教育理念に加えて衛生看護学科では、看護の専門職業人として、専攻科では、保健婦または助産婦としてその専門職を遂行できる人、また良き家庭人として、女性の役割を果たしてゆける人を育成するための専門的知識・技術の学習が行われる。看護教育の特色としては、教育課程の中に「生と死のゼミナール」があり、人間の尊厳に根ざした看護の実践教育を行っている。専攻科は、我が国でも数少ない保・助合同課程であり、凝縮したカリキュラムではあるが、幅ひろい知識・技術を統合し、かつ生命の尊厳に根ざした母子保健活動、および公衆衛生看護活動を行うための教育が行われている。

全学生で組織する学生会では、大学祭や体育祭の行事を行い、又研究集録誌を発行したり、文化系、体育系の21の部活動も行われている。入学時は、合宿オリエンテーションゼミを行い、また各学年においても、宿泊を伴う修養会があり、自己をみつめ、友、教員との出会いを深めながら看護への道を探求する。更に一学年では、環境についての体験学習を通して、自然や人とのふれ合いを深める時間もあり、

以上の教育を通して、知・情・意の調和のとれた人格の育成を、看護をめざす者への人間教育として重要視している。



東海大学医療技術短期大学



校章の説明

校章の下の羽根形は平和の象徴カモメをあらわし、波とともに東海を示したものの。

東海大学医療技術短期大学は、昭和49年4月1日に看護学部を開学した。本学の建学の精神である精神文明と物質文明の融合ということ为基础として看護婦(士)として必要な基礎教育を行って来た。同年東海大学医学部が設立され、医学の新しい分野の確立と人道的医療・看護体制の確立ということを目標に出発した。東海大学医療技術短期大学もこの建学の精神に基づいた医療看護体制の中で看護の役割を果たせる看護婦(士)を育成すべく努力している。即ち科学とヒューマンイズムの融合を目指した心暖まる人間性豊かな医療を提供しようということである。本学は第一看護学科と第二看護学科があるが、第二看護学科は入学資格が准看護婦の有資格者で学習期間は2年である。学業は湘南キャンパスと医学部付属病院を中心に実施しているが、学生生活を学校行事からみると4月には、2泊3日の新入生オリエンテーションがある。2年生、3年生が、オブザーバーとして教職員と力を合わせて新入生が大学生活を一日も早く円滑におくれる様に道案内をする。6月には球技大会が行われる。学生会が主体となり全学生と教職員が参加し思いきり汗を流して優勝を決する。大体優勝するのは1年生の様である。8月の夏休みには、東海大学ヨーロッパ学術センターを根拠地として、ヨーロッパ各地の研修旅行がある。学生は自由に参加し主として看護教員が団長、副団長となりデンマークを中心に、デンマークの看護協会並びに看護学校の御協力のもとに研修を行っている。これによって学生は視野を広め他国の看護の実情を知ると同時に、他面には自己の看護観を深めることができる。研修日程の前半は他の東海大学短期大学の学生と行動を共に各地を旅行し交流を深める。11月には建学祭(飛鷗祭)があり医療技術短期大学の特色を生かした展示や催しが行われる。これは学生全員が参加している様であるが、学生の中から飛鷗祭実行委員会を設けている様である。これらの人々を中心に学生は自主的に活動を行っている。学校側としても予算その他全面的に協力体制を

とっている。また、課外活動も奨励されていて、各種のスポーツ、文化団体活動も活発である。10月には第一看護学科・第二看護学科共に1年生に戴帽式が行われる。戴帽式を通して看護の意義を受け止め看護を職業として選んだ自己の確認と今後の活動を考え、そして看護への学習意欲を一層深めて欲しいと願っている。



東京女子医科大学看護短期大学



校章の説明

中央に深い藍のラピスの原石を用い、その周囲を円形に金で型取っている。
自由・創造・自己をみつめることをシンボライズしている。円は限りなく宇宙に広がる自由を、金色は輝く知性とエネルギーから創造を、ラピスの原石は、世界に唯一の存在である学生個人々々を表わし、常にすべてのものとのかかわりの中で自己をみつめることを意味している。

本学は、86年の伝統をもつ東京女子医科大学を母体として、昭和44年に開校した。東京女子医科大学の創立者吉岡弥生は、男尊女卑の弊風の甚だしかった時代に、女性の地位向上を目指して、独力で女医の養成を志し、自宅に私塾的な女医学校を開いた。女性が自立して生きるためには、学問を学び高い教養と職業技術を身につけて経済的独立を得ることが大切であると、考えたのである。

今日では、社会的情勢も大きく変化し、女性の社会的地位も格段と向上したが、真の自立を求める創立者の理想は、現代における重要な課題である。また、医療活動を通して社会に貢献する立派な女性を育てるという建学の精神も、現代の社会的要請に応えるものである。

本学は、こうした建学の精神を承けて、医療の臨床活動に献身する看護婦および助産婦を養成するという目的のもとに、教育課程を編成し豊かな人間性の育成に努めている。

看護婦・助産婦教育の基本的な課程については、該当法令によって規定されているが、本学では、それに依りながらもできるだけ大学にふさわしい看護教育を目指している。理論を学びそれを実践の体験で深める、広い視野をもつ、自ら考え自ら学ぶ……、これが本学のモットーである。

本学の教育は、その専用施設と専任教員だけでなく、東京女子医科大学の設置する各種施設・設備、そして教員を活用して行われる。なかでも、入院患者の看護ケアを実地に学ぶ看護学実習は、女子医大病院および各種の附属医療センターで行われ、学生は最新の医療を身をもって学習することができる。

なお、病院には、看護の質の向上を目的にした「教育病棟」が指定されていて、看護部と本学とが協力して卒後の継続教育を実施している。

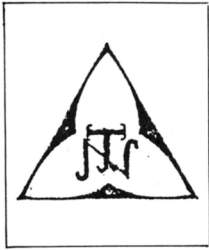
専攻科は、妊産婦・新生児の看護で活躍する母性看護スペシャリストを養成する。



入学定員は看護学科50名、専攻科15名である。専任教員として一般教育5名、医学教育3名、看護専門教育25名がおり、この他に50数名の非常勤講師を委嘱している。看護実習は、1年次に看護学総論の学内実習と基礎臨床実習、2年次後期に成人看護の臨床実習、3年次に母性・小児・地域看護の臨床・臨地実習そして3年次後期に総合学習が行われる。何れの学習も小グループで専任教員が直接指導するので、教員と学生との関係は特に親密である。

また、3年次には講師以上の専任教員がそれぞれの専門を活かしたゼミを開講する。年度によりそのテーマは変わるが、「医原病」(内科学教授)、「基礎心電図」(外科学教授)、「患者心理の文献調査」(心理学教授)、「コンピューターによる情報処理」(化学講師)、「コミュニケーション」(看護学教授)……などである。

東邦大学医療短期大学



校章の説明

三角形は看護の基本である精神・知識・技術を、TはTOHOのT、NはNURSEのNを、月桂樹の葉は古代ギリシャの霊樹をそれぞれ表わす。

日本私立看護大学協会は昭和60年10周年を迎えました。

東邦大学医療短期大学は同年開学したばかりで、まさに零才でございましたが、この記念行事に参加させていただくことができましたことは、大きなよろこびでございました。多くの教育が私塾や私立の機関からはじまったように、看護教育もそのほとんどが個人の間人愛から出発しております。

本学の設置母体である学校法人東邦大学は、額田豊・晉両兄弟を創立者とする帝国女子医学専門学校を大正14年に開設し、以来医学部について薬学部、理学部が併設されました。看護教育は附属病院開設と同時に開始しましたが、昭和20年の戦災で建物のほとんどすべてを消失し、大学や病院の復興に長い期間を要しました。

その間、看護学校も中断の止むなきに至りましたが、昭和32年には准看護学校、昭和40年には3年課程の高等看護学校となり、東邦大学創立60周年を期して、ようやく医療短期大学看護学科として開学することができました。

自然、生命、人間を尊ぶという建学の精神に基づき、美しい自然を守り、人々の健康の保持、増進にたずさわる有用な人材の育成を目標とする学園の中で、看護教育も内外の先駆者、先輩の足跡をたどりつつ、努力していきたいと思います。

一学年100名の学生は、東邦大学医学部附属大森病院（約900床）を主たる臨床実習病院とし、学生自治会のクラブ活動は、医、看合同で行うことが多く、新入生歓迎会や大学祭も両自治会が共同で主催しております。

本学は、まだようやく1才になったばかりですが、看護専門学校時代の良き経験を生かしながら、新しい力の導入によって、変容の著しい社会に対応しつつ、来る21世紀の医療の担い手を育成することを目標としています。

日本私立看護大学協会には、年々新たな大学が加わり、一層の発展が約束されておりますが、10年前、本協会を創設された当時の御苦心と熱い思いに心からの敬意を捧げます。



奈良文化女子短期大学



校章の説明

学 章 本学は名の示すとおり県下に散在する文化的遺産を各分野から研究することを特色に発足した大学である。女性にふさわしい飛鳥の牽牛子塚から出土した日本最古の「七宝製金銅金具」をデザインしたものである。

学科章 本学の奈良文化の特徴を現すものとして古代瓦を全科共通に土台として用いたもので、当学科章はフローレンス・ナイチンゲールのランプを学科の特徴として取り入れデザインしたものである。



1. 現況について

本年4月、62名の新入生を迎え4日間の学内オリエンテーションも無事終了し、週末には、全学あげての新入生歓迎の集いが控えてはいるものの、いよいよ明日から授業がスタートする。現在本大学は、当衛生看護学科以外に教養学科一部、教養学科三部、初等教育学科、幼児教育学科三部、食物栄養学科、音楽学科の各学科と音楽専攻科があり、それぞれ新入生を迎えて、総勢1,423名の新学期が始まろうとしている。

当衛生看護学科の1・2回生合せて120名の学生達は、夏休みをはさみ9月第三週迄の前期間を、数々の行事をこなしながらも目一杯のカリキュラムに邁進するわけであるが、先ず1回生については、本学のセミナーハウス志賀直哉旧居の見学を皮切りに、付属幼稚園で幼児の生活状況を延べ7時間見学実習し、日頃係わることの少ない幼児とのふれ合いを通し発達段階や生活の実体を学ばせ、小児看護学への導入をはかっている。また7月には、2泊3日の合宿を近県施設でもち、討議やスポーツ、又団体生活を通して他との協調や、リーダーシップの連帯意識を育て、かつ自己を見つめさせて看護者として必要な人間形成に役立つようとりくませている。

2回生に関しては、9月からの病院実習開始に備えて、学内においてできるだけ現場の状況に近づけた場面を設定し、看護過程の実際を小グループ単位で体験させる学内総合実習を予定している。教官一人当たり8グループを延べ8週間にわたり指導し、看護技術の基本と応用の学内実習総仕上げとして、全教官が創意工夫を重ね努力している。

また7月には、本学と関係の深い橿原保育園において2班にわかれ3日間ずつ保育実習を組んでおり、小児看護実習へのとりくみがスムーズに行えるよう配慮している。

2. 紹介事項について

昨年秋、はじめて開催された「奈良県看護学生スポーツ大会」の担当校となり、昨年にも増して学生を中心に盛大にとり行われるよう準備にとりかかっている。

本学も含めて県下12校の看護学生は総勢1,500人を数え、それが一堂に集まり、各種のスポーツに、あるいは仮装大会に技を競い気力を傾け、創意を繰り広げる様はまことに壮観であった。今年は知事盃もでるとのニュースが流れ、学生達は日頃の過密カリキュラムの重圧も忘れ、一致団結して頑張ろうと張り切っている。クラスの交流はもとより上下の学年の交流や日頃は行き合うこともない他校学生との交流は、学生達に活力を与え、自主性をひきだし、協力の精神を培う絶好の人間形成の場となっている。又本大会のシンボルマークは、本学教授の考察によるもので、今後ますますこのシンボルマークの指し示す、①心身の健全な発達、②体力の向上、③相互の交流を目ざして、一層の発展を願っている。

次に昨年6月、第10回リフレッシュコースとして本学が開催にあたった卒後研修は、今回は従来続けていた夏季講座の一端として8月2日・3日と再び開講する予定である。毎年70名余の受講生の参加があり、その熱意に逆に励まされて回を重ねてきた。今後共、看護の質の向上を目指して、教育と現場が力を併せて学生の指導にあたりたいと願っている。



日本赤十字看護大学



校章の説明

校章は楕円形の燵銀台です。中央に赤十字のマークと看護のシンボルとして「灯火」をデザインしています。「白地に赤十字」は赤十字発祥の地スイスに敬意を表して、スイスの国旗の色を逆にしてつくられたものです。赤の十字は白地に正方形を五つ組み合わせさせた型を使用しています。

「灯火」はクリミヤの病院において、フローレンス・ナイチンゲールが夜更まで傷病者をひとりひとり見舞われた時の“ともし火”をかたどっています。

この校章は赤十字女子短期大学になったときに、新しくつくられたものです。引続き看護大学の校章として学校名を記銘し、そのまま使用しています。

◎沿革

本学は、明治23年(1890)に日本赤十字社看護婦養成所として誕生し、以来現在までに7,100名の卒業生を世に送り、赤十字看護婦として国の内外で広く活躍し、その実績は高く評価されている。とくに赤十字の救護活動においてその使命を達成してきた。

昭和21年(1946)専門学校令により日本赤十字女子専門学校に昇格し、戦後の看護教育制度改正に対応し、我国における看護教育の先進的役割を果たしてきた。

昭和29年(1954)に日本赤十字女子短期大学と改称し、さらに昭和41年(1966)校名を日本赤十字中央女子短期大学と改めた。

昭和50年(1975)学校創立85周年を迎えるに当り新校舎が完成し、充実した設備と環境のもとに教育を実施してきた。

本学は、昭和61年(1986)4月、4年制の日本赤十字看護大学に昇格。

◎学部学科並びに学生定員

看護学部看護学科 4年

入学定員 50名

総定員 200名

◎教員数

学長1名、教授13名、助教授6名、講師6名、助手5名、非常勤講師51名
計82名

◎卒業時取得資格

本学部で定所の単位を修得した者には、看護学士の称号および、看護婦・保健婦の国家試験受験資格が与えられる。さらに、選択科目の助産に関する専門科目を復習すれば、助産婦の国家試験受験資格も与えられる。

◎学生寮

本学教育の一環として、1学年入学時より2年間は、全寮制を実施する。

◎施設の概要

校地総面積	24,315 m ²
校舎	地上7階、地下1階
実習施設	日本赤十字社医療センター



日本赤十字武蔵野女子短期大学



校章の説明

校章は楕円形の燵銀台です。中央に赤十字のマークと看護のシンボルとして「灯火」をデザインしています。「白地に赤十字」は赤十字発祥の地スイスに敬意を表して、スイスの国旗の色を逆にしてつくられたものです。赤の十字は白地に正方形を五つ組み合わせた型を使用しています。

「灯火」はクリミヤの病院において、フローレンス・ナイチンゲールが夜更まで傷病者をひとりひとり見舞った時の「ともし火」をかたどっています。

この校章は赤十字女子短期大学になったときに、新しくつくられたものです。

(沿革)

昭和27年、人道、博愛の理念に基き、人類の福祉に貢献する赤十字看護婦の育成をめざし、武蔵野赤十字高等看護学院として発足、41年に短期大学となる。32年より併設の助産婦学校は48年に短期大学専攻科となり現在に至っている。60年度までの卒業生総数は、看護学生1,097名、助産婦学生378名である。

(現況)

現在の専任教員数は教授、助教授、講師、助手合せて29名、非常勤講師は101名。計130名がそれぞれ専門分野を担当している。

60年度は日航機墜落という不幸な事故があり、救護活動に出動した看護婦総数の約60%は赤十字からの派遣であった。本学卒業生も参加していることは勿論である。国の内外を問わず、様々な災害地や医療のゆき届かぬ場からの赤十字看護婦への期待は大きい。社費による教育制度は、それに応えうる赤十字看護婦を育成するためのものである。

教育上では、ただ単に単位を修得すればよいということではなく、担任制をとり、きめ細かな相談に応じながら、学年目標を掲げ、看護する人としての成長を図っている。更に全寮制で、学生同志の係わりから主体性や、協調性を養い、これを補っている。一方、臨床実習や継続看護実習など実践を大切にされたプログラムや、救急法、災害看護演習など赤十字の特殊性を十分学べるような配慮をしている。

入学者は全国からであるが、ここ数年、東京都内の人が増加傾向にあり20~25%を占めるようになった。

(入学試験について)

入学者の合否は、学力考査、出身学校長の調査書、健康診断、面接等の総合判定により決定する。

① 学科試験

- a. 国語……………国語Ⅰ、国語Ⅱ
- b. 数学……………数学Ⅰ、代数幾何、基礎解析
- c. 理科……………理科Ⅰの関連分野を含む化学、生物のうち1科目選択
- d. 外国語……………英語Ⅰ、英語Ⅱ

② 作文

③ 性格テスト

④ 面接

⑤ 健康診断



藤田学園保健衛生大学



校章の説明

この図柄は、学園のシンボルマークである「太陽と大気と水のマーク」を古代風鏡のなかに嵌入したものである。このマークは、生命の存在しうるところに、生命よ永遠なれとの敬虔な祈りの象徴であり、鏡は、絶えずみずからをうつして、ソクラテスのことば「人よ、汝みずからを知れ」の示唆である。

医師を初めとする医療系卒前卒後の総合教育の場づくりに燃焼してきて今、衛生学部衛生看護学科は19回生を迎えるに至った。当学園における1学部・学科の現状を語るには全学園におけるかかわりの中で話すべきであろうが、その紙幅はない。ただここ2～3年、学园内学校群の入試において、衛生看護学科は大変難関となり、それにつれて優秀な学生が集まるようになった。

これら学校群の充実発展は、病院群の発展整備とその軌を一にするものでなければ、医療教育はバランスを失い欠陥を生じる。第1教育病院は、今や1,216床となり、近く1,500床になろうとしている。本学科出身看護婦は、看護婦長2名、主任7名、副主任8名を含め80名が活躍し、臨床実習指導を始めとして一貫した教育体制を完備しつつある。

また、3年間の経験を経た2名は、本学大学院医研研究科に学び、医学博士の看護婦が生まれようとしている。第二・第三教育病院も充実し、来年早々には第四教育病院として、ホスピスを含むサトナリウムが開設される。こうした様々の医療パターンの中で、学生はより多くのもを学び、刺激と感動によるモチベーション・エンカレッジメントを高めることであろう。加えて学舎前の植樹、「連帯への滝」と噴水、さらにはプレアデス・チャペルの設置など、緑と水と空の、思考と内省とやすらぎの環境も整備された。

今後なお続くであろう問題は、教育効果の大半をも占める同化現象である。良好な風格が自然に身につくような、こころ、礼節のみなきる場でなければならない。教員や病院職員のあり方こそ、そこでなされる医療の実態こそが、大事なのである。幸いにして我が学園は、医療各相の学校、病院が併存している。大学教員とくに助手の段階では、看護専門学校の教員として教育実践し、病棟婦長主任として看護実践している。そして講師の段階では、教育・研究に実践躬行している。常に、看護

の本義を中心にした同心円上にてローテーションしてゆく体制がようやく、でき上がりに近づいている。本質への求心的実践過程ともいえようか。真に思いやりと実力のある者のみが、医療の教育者として在りうるのであって、医学医療系学部学科の教員学生同行体制の連帯と環境づくりが結実する不可欠条件である。

今これらの願いをこめて、粋を集めた 2,000 人合同校舎の大工事が進んでいる。



日本私立看護大学協会結成 10 周年記念行事会計報告

収 入 の 部			支 出 の 部		
項 目	金 額	備 考	項 目	金 額	備 考
会 費	450,000	15 校	会 議 費	6,000	
お 祝 い 金	150,000	6 件	通 信 費	17,040	
リフレッシュャー 資 金 より	100,250		印 刷 費	79,300	
			交 通 費	2,310	
			消 耗 品 費	1,840	カセットテープ
			謝 礼 費	6,000	
			記 念 品 費	15,360	シンポジストへ
			懇 親 会 費	536,910	
			雑 費	18,990	リボン他
			打 合 会	16,500	反省会
合 計	700,250		合 計	700,250	

編 集 後 記

昨秋10周年記念祝典を無事終えることができ、委員一同肩の荷を下ろしたところでしたが、今後の10年に向けての協会の発展のためにこの祝典の記録を残そうということで、今年度早々から企画を練り、この度ようやくにして記念誌「10年の歩み」ができあがりました。

編集委員会では、記念誌をどのような性格のものにするか論議を重ね、最終的に、祝典当日の記録に加えて加盟各校の紹介記事を載せ、看護系私立大学・短大について多くの方々に知っていただけるような情報誌とすることに決めました。そのため、加盟校の関係者の皆様に急拠原稿をお願いするなど一方ならぬお世話になりました。編集委員一同心からお礼を申し上げます。

本協会は、ほかの大学・短大協会に較べると小さな所帯であり、このこと自体わが国の看護教育制度の不備を反映しており、はなはだ残念な現状ですが、今後とも私学の設立が増加するように願ってやみません。この意味で、昭和61年度設立の2校にも本誌に掲載の労をお願いいたしました。

来たる20周年記念祝典が、さらに盛会でありますように……………。

昭和61年6月

編集委員一同

(非売品)

昭和61年6月30日印刷

昭和61年7月4日発行

編集兼
発行人 日本私立看護大学協会
〒104 東京都中央区明石町10-1
聖路加看護大学内
電話 03(543)6391

印刷所 今村印刷所
〒104 東京都中央区明石町11-6
電話 03(542)0435